阿武隈川流域の現地見学（第１回）

第１回目では、2005 年 6 月 16 日、福島河川国道事務所の方々の案内で、直轄管理区間の見学を行った。

見学参加者

　共生システム理工学類　虫明功臣、柴崎直明、長橋良隆、難波謙二、木内豪、宮本守、吉田春香

　人間発達文化学類　後藤秀昭

見学地点は下記のとおり。

二本松・安達地区（水防災対策特定河川事業）

　本地区は無提地区であったため、平成 10 年 8 月や平成 14 年 7 月の洪水で国道 4 号が冠水するなど多大な浸水被害を受けている。本地区では、連続堤防方式によるのではなく、輪中堤や宅地の嵩上げなどによって浸水対策効果を早期に発現する方式で整備を進めている。

安達地区の無堤部

郡山の特殊堤区間

　阿武隈川本川左岸には特殊堤が残っており、治水上の課題となっている。

愛宕川救急内水排水機場

　洪水時に阿武隈川の水位上昇に伴って内水による浸水被害が想定される場合、排水ポンプを稼働して強制的に内水を排水する。

郡山河川防災ステーション

河川防災ステーションは、水防活動を行う上で必要な緊急用資材を事前に備蓄しておくほか、資材の搬出入やヘリコプターの離着陸などに必要な作業面積を確保するもの。洪水時には市町村が行う水防活動を支援し、災害が発生した場合には緊急復旧などを迅速に行う基地となる。郡山河川防災ステーションは、河川管理者と水防管理者である郡山市が一体となって整備を進めたものである。

浜尾遊水地

阿武隈川流域は、平成 10 年 8 月の記録的豪雨により甚大な被害を被った。この災害を二度と繰り返さないように「阿武隈川平成の大改修」が行われた。その一環として、須賀川市およびその下流の郡山市、二本松市、福島市等における水害から人命・財産を守るために浜尾遊水地が整備され、平成 16 年度に完成した。　詳しくは→http://www.fks-wo.thr.mlit.go.jp/hamao/index.htm

遊水地内の様子

越流堤

乙字ヶ滝

日本の滝１００選にもなっている名所。直轄区間の上流端の少し下流に位置する。滝の左岸側には発電所の取水堰が見られる。

狭窄部（阿武隈渓谷）・猿跳岩

阿武隈川には岩河床からなる狭窄部が何箇所かあるため、緩流と急流が交互するという河道の特徴を呈する。「阿武隈渓谷」と「阿武隈狭」が代表的で、阿武隈狭は最も急勾配で落差が大きい。今回見学した阿武隈渓谷は福島県と宮城県の県境に位置する狭窄部である。また、猿跳岩は、狭窄部で阿武隈川岸に切り立つ巨石のことである。

猿跳岩

梁川地区の水防災

梁川地区（宮城県境～福島県梁川町滝沢）では、近年、度々、沿川の家屋が床上浸水被害を受けている。当該地区は狭窄部であるため、連続堤防や河道掘削といった従来の治水方式ではなく、住家の嵩上げなどによる早期の被害軽減を図ろうとしている。

梁川地区（阿武隈川右岸）

荒川樹林帯

荒川は福島市内で阿武隈川本川に合流する左支川である。荒川では、江戸時代に作られた霞堤や水防林が今も残されている。そこで、荒川特有の歴史的資源である水防林を「樹林帯」として保全・再生して、洪水時に流出する土石流を抑えるとともに、氾濫流の拡大を抑制することを主たる目的とした荒川樹林帯整備事業が行われている。

隈畔・水辺の学校

「隈畔」とは、阿武隈川の河畔を略した造語で、明治時代から使われていた。現在は、県庁前の阿武隈川左岸を指す言葉として用いられている。また、隈畔を含む渡利大橋から天神橋までの区間は「渡利水辺の楽校」と称する水辺空間として再生された。